

平成31年度宮城県NPO等の絆力を
活かした震災復興支援事業

発行日 2019年9月30日
発行所 特定非営利活動法人
故郷まちづくりナイン・タウン
責任者 編集長 伊藤 寿郎

〒987-0601
宮城県登米市中田町石森字小人町 71-2
TEL/FAX 0220-44-4301
Email kawas@nine-town.org
Web https://kawas.nine-town.org



創刊号

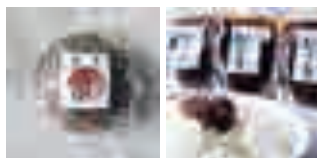


取材インタビュー

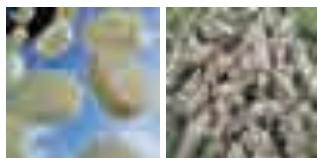
きっかけは、

震災から1年後のある日。

菊千 菊地 三千代



ピーマン糀味噌と雁月を中心に地元の食材を
とり入れて食品を加工しています。
時々無農薬、無肥料で自然栽培した野菜で漬
物を製造・販売も。



手づくりこだわりの、体にも心にもやさしい商
品を提供致します。

毎月開催される『石森いろいろ市場』で沢山の
方々との出会いを楽しみにしております(o^^o)♪

今の仕事を始めるきっかけは、13年前から無農薬米を栽培して、震災直後の2012年に都市部で暮らす知人が訪ねてくれた時、手作りのピーマン味噌と雁月を提供したところ、とても美味しいから売ってみたらと勧められたことです。そこで、販売に向けて製造を始めましたが事業の経験も無く、手探りで始めた食品加工販売だったので、多くの方にアドバイスをいただいで販売できるようにになりました。ただ、売るとは難しいものです。そこで、石森いろいろ市場や近隣のマルシェに参加させていただいて、対面販売で試食してもらってお話しながらご購入い

ただいています。おかげでリーダーさんも出るようになりました。からだは食べもので出来ているので、美味しく体が喜ぶものを皆様に提供したいと思っています。今年もピーマンも無農薬、無肥料で自然栽培を目指して作ってみました。失敗に終わりましたが、また来シーズンこそは自家製にこだわった《自然に採れる自然のもの》。見た目より体に良いものを！と考えると、ピーマン糀味噌を究めたいと思います。

菊千
岩手県一関市藤沢町砂子田
TEL 080-8210-0350 / FAX 0191-63-2186 菊千 岩手



取材インタビュー

若い人でも身に付けやすくなるように 試行錯誤の日々。 和と小物 ばばば 鎌田 恵美



- ・もだまアクセサリー類 ¥1000~¥1200
- ・木の美リースやオブジェ ¥300~¥2000
- ・シーグラス商品 ¥400~¥900
- ・レジンアクセサリー ¥500~¥1000
- ・着物生地を使った小物 ¥500~
- ・着物生地を使ったバック類 ¥500~¥10000

和と小物 ばばば
E-mail kama01150713@gmail.com
 鎌田恵美
 emi.kabababa

店名の「ばばば」は、「じえじえじえ」と同じような使い方をする気仙沼周辺の方言です。昔から趣味で小物を作っては知人にあげていましたが、好きなクラフト市を見て回るうちに特に自分に合った「木の実」と出会い、そこからますます作る意欲がわいてきました。いま作っているのは、◇もだま(エンタダマメ)、どんぐり、胡桃、栃の実、着物生地を組み合わせたアクセサリーや日常小物。◇気仙沼のシーグラスや貝をそのまま閉じ込めたレジンアクセサリー。◇シーグラスと貝の夏リースのワークショップ、木の実で作るリースやオブジェ

のワークショップも随時行っています。木の実とレジン・着物生地や地元気仙沼のシーグラスや貝を組み合わせてアクセサリーに仕上げられています。珍しい組み合わせをすることで、目を惹く、自分だけのアクセサリーになるような作品作りを心がけています。和の物だからお年をめされた方のファッション...という片寄ったイメージを覆し、若い人でも身に付けやすくなるような工夫をしながら日々試行錯誤しています。





連載
『地域』と『人』の『想い』を繋ぐ

— 大山 敏幸 —

はじめまして。「懶まちおもい」と申します。東和町米谷にある小さな不動産屋です。
地域の人の日々の暮らしに関わり、人に寄り添う不動産屋でありたいと願っています。

築年数や立地などの条件だけではなく、その家や土地に宿る人の思いを伝えていきたい。そして、みなさんが抱える家や土地の困りごとや活用について一緒に考えてさせていただき、これからの暮らしのあり方がより良いものになれたらとてもうれしく思います。

特にまちづくりの視点で力を入れていける「空き家の管理・利活用」について、みなさんのお役に立てる情報を発信していきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。



(株) まちおもい

宮城県登米市東和町米谷字日面30
TEL/FAX 0220-23-9827
E-mail machiomoi@outlook.jp
Web http://machiomoijimdo.com/

- ・不動産業務全般(売買・賃貸の仲介、管理など)
- ・空き家・空き店舗の活用、相談
- ・住宅宿泊管理業(民泊の運営管理)
- ・リフォーム・リノベーションの相談
- ・ドローン撮影
- ・手書きPOP製作と指導(宮城県商工会連合会専門家登録)



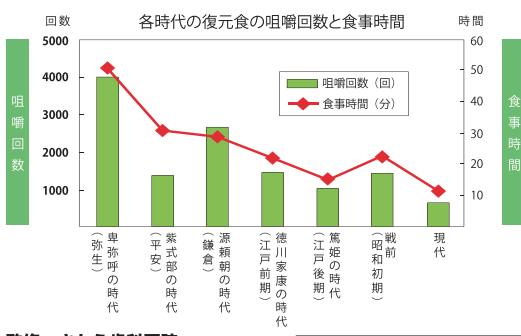
連載
『飽食の時代』『軟食の時代』の現代へ向けて

現代は『飽食の時代』『軟食の時代』です。現代人は噛む回数や食事時間が激減しています。齋藤滋氏ほかの復元食の研究では、現代人の一回の食事時間と噛む回数(1分、620回)は、卑弥呼の弥生時代(51分、3990回)の五分の一で、昭和初期の人(22分、1420回)の半分程度まで減少しています。

人間は日々脳細胞が減少するため機能低下は防げませんが、子ネズミの実験によれば噛むことにより脳の老化を遅らせることが分かっています。

また、噛む回数の減少により低栄養になり、そして、低栄養から免疫低下になり病気になるやすく、体力の低下により転倒などを起こすようになります。体力の低下は外出などの意欲の低下を起し老化を進めます。このような口腔機能低下症にならないために、今すぐで

きることは『鼻で息をする』ことである。



出典:よく噛んで食べる 忘れられた究極の健康法 齋藤滋著 NHK出版

監修:さとう歯科医院 院長 佐藤 敬喜



リニューアルのお知らせ

- 2019年8月1日、みなさんりく発掘ミュージアムとして店舗リニューアルいたしました。
- ◎南三陸が誇る世界最古の化石を展示
 - ◎産業の歴史が学べる民族資料展示
 - ◎地元食材をふんだんに使ったレストラン BBQ・海鮮・野菜・スイーツ
 - ◎野菜&魚介類直売・お土産コーナー



国内唯一! 奇妙な生き物『ティラコ』化石産出地

みなさんりく 発掘ミュージアム



世界に一つしかない、オリジナルつまみ細工

『つまみ細工』とは江戸時代から続く伝統工芸で、正方形に裁断した布を折り畳み、糊で張り合わせて様々な形を作り出す手工芸のことを言います。舞妓さんの花簪を思い浮かべていただくとイメージが湧きますね。大奥で着物や仕立てる縫子さんが、美しい布の端切れがもったいないと、澱粉糊で作りはじめたのが発祥という説があります。昔は「小豆が包める布は捨てずに取つておけ」と言ったらしく、正にそれがつまみ細工のサイズ。基本は3cm、小さいものになると1cmの生地をピンセットを使い折り畳みます。針と糸は使わずに木工ボンドで貼り付けます。様々な色を組み合わせた花は世界に一つしかないオリジナル。組合せ次第でデザインは無制限です。「もったいない」精神から生まれたつまみ細工。あなたもぜひ体験してみませんか?

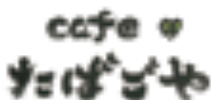


つまみ細工の作品



幸せつまみ細工はなはな主催
つまみ細工作家・講師:那須野公美
(石巻在住・米山町生まれ)

cafeたばごやで月2回つまみ細工教室を開催。
お問い合わせは「cafeたばごや」まで。
活動の情報はFacebook・Instagramにて



ワークショップのお知らせ

石/森章太郎ふるさと記念館に併設する店蔵を利用した地域コミュニティカフェたばごや。ここではお客様の「こんなことをやりたい」に先生を探し、先生の「こんなことができます」にお客様を募集し、小さなコミュニティづくりのお手伝いをしています。それが「大人の部活動」となり、楽しく活動しています。(英会話・着物・DIY・韓国語・手芸・ハーブ・カラオケ・パソコンなど)

今回は『cafeたばごや つまみ細工 ツマツマ部』顧問の公美先生に寄稿をお願いしました。

ワークショップなどの情報は「Facebook カフェたばごや」で検索いただくか、下記にお電話ください。
宮城県登米市中田町石森字町132-4
TEL 0220-23-7015 (定休:月曜、祝日の場合は火曜 営業:10時~17時)

家事おてつだいサービス
1回体験キャンペーン

7,000円 → 3,500円 (50%OFF)

ご相談・お見積りは無料。お気軽にお電話ください。TEL 0120-22-5199 FAX 0220-22-6650 0220-22-9001 〒987-0511 登米市迫町佐沼字江合1丁目5番地1 (DM)店コード:1231064



連載 川の畔にひっそりとたたずむ一軒のコーヒー屋 — 嶋村一歩 —

私は東和町の美しい里山に暮らしている。父は40年近く江戸独楽をつくり生業にしてきた。母はその手伝いをしながら、私と弟を育ててくれた。母も父も音楽が好きで、年に一度はプロの歌うたいに来てもらい近所の人や友人に声をかけライブを催してきた。ライブは今年32年目になる。

歌うたいはギター片手に全国を旅している素敵な人たち。私は小さい頃から歌と旅の話の話を聞くのが楽しかった。ライブに集う人たちも、年齢、仕事、考え方など様々で、純粋な私に、世の中にはいるような生き方があること、お金とは関係のない豊かさがあることを教えてくれた。



連載 中田町浅水地域を活性化

はじめまして！1992年仙台市生まれ、「齋藤翠(さいとうあきら)」と申します。「さいとうくん」と呼んでください。

私は現在登米市に移住をし、お給料を頂きながら中田町浅水地域を活性化する仕事をしています。私がどうして登米市に来たかという点、私は「立派な社長になりたい」そんな夢があり、その夢を叶えるため登米市にやってきました。どうして社長になりたいと思ったのか、今はどうなのか。これから10回程連載させていただきます。よろしくおねがいします。



さいとうあきら



落語家 桂恩狸

どうも大阪を中心に活動してる落語家の桂恩狸です。御縁から年に2回、東北に笑いを届けに行っています。落語を初めて聞かれるお客様にも楽しんで頂くのをモットーに、頑張ってます。初めのお客様もこの3つの約束事が守れたら楽しんで頂けます。

- 1、面白かったら笑って下さい
2、面白いところを見つけて笑って下さい
3、面白くなくても笑って下さい
これを守って落語会に来て下さい！



マジック・落語 笑福亭 智之介

落語家 桂恩狸



連載 ワーター博士の星くずトーク

ウィースー！今夜も綺麗な星を覗いているかな？

11月の夜8時頃になると、頭の真上に4つの星の大きな正方形が見えるが、これがベガス座の「秋の四辺形」じゃ。空全体を広く眺めるように探すのがコツじゃ。

12月には夕暮れの西の空に「金星」がピカピカ光るぞよ。なんと、東の空には冬の王様「オリオン座」が昇るぞよ！済みきった秋の夜空で！星の色もすっかり楽しんでくれるかな？

よろしい！ではまた会おう！寝る前に歯磨きしろよ！



ウォーター博士



HAIJIパン 町家ナカマチ 10月24日(木)11時から 無くなり次第終了

11月、12月は → HAIJIピザ



開催日時 / 定員 / 場所

- 11月23日(土)13:30~ / 50名 / 横山不動尊 (登米市津山町横山本町3)
11月23日(土)20:00~ / 20名 / 石森ナカマチ亭 (登米市中田町石森字町133-1)
11月24日(日)10:00~ / 50名 / 石森ふれあいセンター (登米市中田町石森字茶畑7)

前売り入場料

一般1,300円 65歳以上と学生は1,000円(当日はいずれも200円増)
詳しくはWEBへ (http://nine-town.org/infonow/)
WEBサイトは10月10日~ 先行販売開始

萬笑亭 過疎に咲く元氣寄席

投稿記事コーナー



登米市 小野 幸恵 「NPT再検討会議あるって」

ちょっと難しいイメージですが、NPT(核兵器不拡散条約)再検討会議って聞いたことありますよね。「なんかテストの時、覚えたな」とか「ニュースで聞いたな」とか。

5年に1度、ニューヨークの国連本部で開かれる会議で、被爆者の代表も参加し、2020年にあるんです。核兵器が世界にどれくらいあるか、等々、関心を持つことは大事ですね。



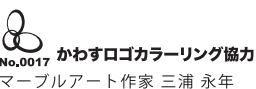
上原 節子

先日の空と同じ空なれど 空なれど 今日の空は いたくはかなし

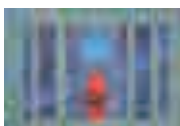
みどりふく 青菜の畑 のぞみつつ 話せど尽きぬ 夕暮れまでも



かわすロゴデザイン Design Studio 一筆 小山 康博



かわすロゴカラーリング協力 マーブルアート作家 三浦 永年



「沼三兄妹」キャラクターデザイン Pendragon



No.0002



No.0003

紙SNS・KAWASの特徴
街の中にはいろいろな人が居てほしい。そこで、投稿や寄稿した方はかわすの住民として登録します。それが住民登録証としてNo.入りのスタンプになります。記念すべきKAWAS・CITYの最初の住民は沼三兄妹です。長沼、伊豆沼、内沼を題材にしたイメージキャラクターの可愛い住民です。次号で三人の名前の公募を呼びかけますので、考えてみてください。



進みゆく縮小社会をチャンスととらえ

2014年5月8日に民間の「日本創成会議（座長増田寛也元岩手県知事、元総務大臣）がちよっとシヨッキングな発表をしました。それは「生む世代」の若年女性の流出に歯止めがかからず、存続できない可能性のある「消滅可能性」地域が全国17999市区町村のうち896あるというものでした。

しかも、そのうち523市区町村は2040年に人口が1万人を下回り、高齢者すらも減少する「極点社会」となるそうです。私たちはどのようにこの目の前にある地域の「危機」と向き合えばよいのでしょうか。

紙SNS・KAWASの取り組みは「進みゆく縮小社会」を地域のピンチととらえるのではなく、逆にチャンスととらえることから始まっています。地域の様々な資源（人的、文化的、自然環境など）を活かし、多様な主体がつながりながら真に豊かな生き方、働き方を実現で



「私たちの言葉」をどう共有するか？

福祉に関心ある人なら、「生保」といえば生活保護のこととすぐ分かる。しかし金融関係の人なら、まず「生命保険」を思い浮かべるに違いない。いずれも人生のリスクに面したときの資金提供の仕組みであるからイメージは近接するが、内容はかなり違う。福祉と金融の関係者がお互いに相手の意味を理解しない議論すると、混乱するかもしれない。

同じ床で異なる夢を見ることを「同床異夢」という。同じ言葉で異なる意味を語ることは、「同言異意」といっていい。民間の夢多き地域活動の周囲には、この「同言異意」の世界が世代を超えて広がり、意志疎通がむづかしいこともしばしばではないかと思われる。その解決には、丁寧な対話による「私たちの言葉」の共有が求められる。今回創刊された「かわす」は、そのような媒体としても一役を担ってくれるの

萩原なつ子



立教大学・教授、認定NPO法人日本NPOセンター代表理事

山岡義典

ではないか。今後10回を予定しているコラムでは、そのような視点から身の回りの現象を検証していきたい。読者の皆さんからも、「同言異意」のユニークな事例を紹介していただくとうれしい。



市民社会創造ファンド 山岡義典

編集長雑感

紙SNS・KAWAS創刊

伊藤寿郎

なぜフリーペーパーの発行を決めたのか。それは街が無くなって行く現場で暮らしているからです。

街が無くなる理由は大規模災害や、感染症の蔓延、資源の枯渇、戦争、ダムや水防工事、産業衰退、流通革命などがありますが、いまの時代は何と言っても人口減少でしょう。

津波や地震で被災した方々は高台や内陸部に移住した方も多く、移転先の新しい地域に慣れるために苦労が続き、一方で、旧来の街の住民は向こう三軒が空き家と空き地の中に暮らすなど、従来の拡大再生産の地域づくり手法では安全や安心は確保できない時代に入っている。

このような時代に私たちは、この状態を少しでも改善する努力をして、次の世代に引き渡す責任があります。

そのために先人の努力で作りに上げた組織や仕組みを基にしながらこれからの時代を担う子育て世代や豊かな経験を持つ年配の方々を応援するために、発行を決めました。

誰でも一人の国民としての尊厳があり、人権が保障されているこの国で、自らの勇気と知恵でこの時代を乗り越えるために私たちはいつでもどこでも進化することができます。

街は人が創るところ。街は人を育てるところ。それは古の時代から連続と行われた人間の営みそのものであり文化です。金銭や他の価値観には変えられないものだとすれば、文化を創っていることにほかならない。

この先AIが合理性を持って活躍する社会になったとしても、人の創造性は歴史の上に立って未来を創り出せる文化として人間の手から離れることはない。

この街かわすは肩書や形に囚われることなく、一人の人間として挨拶を交わし、言葉や想いを交わせるようにと

「かわす」と名付けました。市民社会の一人としてプライドを持ちながら、自発的に自律した活動を造り上げましょう。

小さな街であっても、内部を循環する小さな経済があれば助け合えます。物々交換の時代から現在でも手作りのものは豊かさや温もりを感じます。

自ら考えて生み出す勇気を持ち、自分ができることを楽しむ人を応援できる場所にしたいと思います。

今回、多くの皆様から励ましと支援をいただき、みなさまの熱い思いに胸を震わせながら創刊できましたことに心より感謝申し上げます。

願いは叶うと教えられ、この歳まで願ってさえいれれば叶うものだとばかり思っていました。動くことではじめて叶うことも知りませんでした。

いま決意を新たにしながら、新しい小さな芽が育ち始めていることを喜びとともに実感して、小さな花が咲き、実をつけ、種が増えるようにと願います。

ロゴマークとお願い

KAWASのKをイメージした大中小の輪がつながり、未来に回りながら登るイメージでつくりました。創刊にあたりお願いがあります。

- ① 配布をお手伝いしたいと言う「かわすサポーター」を募集します。
- ② 今後も継続して発行するための「協力スポンサー」を募集します。
- ③ 誌面を創る「投稿かわす住民」を募集します。気兼ねなくお問い合わせください。



かわすのシンボルマーク

遺品のお焚き上げを お手伝いさせていただきます



ご家族様が亡くなられたあと、ご遺族様から家具、家財の整理を依頼され、仕分け、整理、不用品の処分、遺品のお焚き上げをさせていただきます。

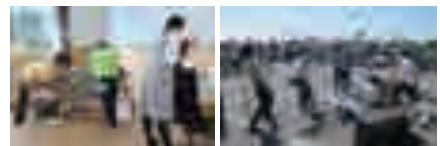
株式会社 まごころ

宮城県登米市中田町上沼字新寺山下45番地1

【担当】 齋藤 090-2840-9002
阿部 090-4635-6598

石森いろいろ市場

みやぎ生協 加賀野店
毎月第1日曜日10時から16時まで開催



会員は石巻市、気仙沼市、登米市、一関市、栗原市、大崎市など広範囲で、加賀野店様のご厚意で店舗二階の集会室や和室、屋外ブースをお借りして開催中です。お子様向けのプレイランドや高校生のライブ演奏なども行われます。詳しくは毎月発行のチラシ、またはfacebookをご覧ください。

